

土 木 座 談 會



康徳7年3月1日 於新京中銀クラブ

出 席 者

坂田會長	司 會 者 (町田氏)	水 電 (本間氏)	牡 丹 江 (鈴木氏)
	黑 河 (吉村氏)	奉 天 省 (津田氏)	安 東 省 (黒田氏)
	錦 州 省 (石田氏)	鑛工技術院 (浮州氏)	大 東 港 (近藤氏)
	新 京 市 (重住氏)	土 産 開 發 (嶺川氏)	龍 江 省 (北村氏)
	彰 武 (石塚氏)	交 通 部 (山田氏)	

坂田技監 それぢやこれから座談會を開催しやうと思ひます、本日の座談會は滿洲建國當時眞先にこの滿洲國に参加せられた時に殆んど軍隊と行動を共にするやうな危険を冒しながら奥地の方で御活動なされた方々のいろいろ貴重な體驗を御伺ひすると云ふやうな趣旨であります。皆様方が御忘れない内に是非速く斯う云ふものを取纏めて置きたいと云ふ希望を持つて居たのであります。幸ひ日本紀元二千六百年に相當しますし又滿洲は本日建國第八年の輝やかない記念すべき建國祭當日に當りますのでこの日を撰んで催した譯で御座います。どうかその意味に於て皆さん貴重な體驗談をこれから御願ひし

たいと思ひます、尙司會は町田道路司長に御願ひしたいと思ひます。町田道路司長は、矢張り古くから國道局の方に御出でになつて居りまして、皆さんと殆んど前後して活動された方々でありますのでいろいろ進行して頂くと云ふ意味に於て適任だと思ひます。町田司長に御願ひす事にしてこれから始めます。

町田司長 それでは命令に依りまして進行係を勤めさせていただきます。今日御集り願つた方々は建國當初から彈丸の下をくゞつたり、いろいろ苦勞して來られた方ですから話題はいくらでも御持ちのことと思ひますが残念乍ら充分の時間がないので進行を急ぎますがその點御了承を

御願ひ致します。それでは先づ最初に重住さんに新京の國都建設に關する御話をして頂きたいと思ひます。

重住處長 只今からそれぢや私が國都建設の往時の狀況を思ひ出す儘に御話を申上げて見たいと思ひます。私は滿鐵に永らく奉職して居りましたが、恰度滿洲國の建國と共に國都が新京に定まりました當時軍の方から電報で招かれて新京へ大急ぎで参りました。來て見ますと國都建設の仕事をしると云ふことであつた。爾來その方面の仕事をして参りましたが、恰度私が参りましたのは大同元年 6 月 21 日でありまして、當時は未だ國都建設局と云ふものが出来てゐません、事務所と云つたやうなものが恰度新京神社の南方千鳥町の一角に借家で四間許りの中の六疊の部屋に頑張つて仕事をしましたが、恰度私共と時を同じうして現在奉天市の工務處長をしてゐる溝江君と滿鐵からの相賀君と私の三人がその六疊に卓子を据えて仕事をしました。私の擔當は初めは國都の土木工事全體に對する計畫設計事項でありましたが後水道を專用に擔當する様になりました。溝江君は都市計畫相賀君は建築工事を擔當して居りました。その時局長になる人は丸山芳樹と云ふ人であつて仕事を總括されて居つたのですが、官制は 9 月半ばに發表しまして、始めて建設局が出来上りました、それと共に丸山氏は内地へ歸られて以後は阮振鐸氏が局長で今の開拓總局長の結城清太郎氏が總務處長になり近藤安吉氏が技術處長として技術方面を總括する事となり、茲に幹部が出来た。先づ國都のプランを作るのに一番最初に必要である圖面がない。これを先づ作らねばならない。併し測量して居つては間に合は

ないので陸地測量部に御願ひして、飛行機で寫眞を撮つて貰つて、それで 1 萬分ノ一の圖面を 1 月半位で作つた。これが滿洲國として飛行機寫眞の初めでないかと思ひます、此圖面によつて國都のプランを作り事業計畫を樹てました。これは大同元年の終りに作られたが、當時國都建設計畫委員會が出来てこれには參議各大臣その他主要な人が委員に加はつてゐたのですが、この間の事業計畫を提出しましたところ原案通りに可決され、これに依つて具體的の案が決定しました。その計畫の下に仕事を進めて参つたのであります。この仕事をしますのに最も困つたのは人の問題ですが、仕事は火のつくやうに急いでゆかなければならぬ、技術員は先程申しましたやうに三人の轉勤とその外に局長と兩處長と外は僅かな技術員がゐるきりで下に居つて働く者が少ない、是等の人をどうするか、忙しくて日本へ招びに行く暇がないから向ふから來るのを待つて居つたが、只今と違つて、その頃は相當使つて呉れと云ふ人が多かつたので、夫等の人を使つたが各方面の人が網羅されて居つた。併し夫等の方は滿洲に於て一旗擧げやうと云ふやうな人達であるから皆元氣がよくその當時は非常に統制をとるのに苦勞しました。それに續いて工事をするのに材料が殆んど集まらなかつた、先づ碎石、砂、煉瓦を用意しなければならぬことになり砂は伊通川から採り煉瓦は川筋で焼くことになつたが碎石がない、早速石山を探すことになつて石碑嶺の一部に石山を發見したが新京まで運ぶのに馬車トラックでは困るので輕便線を造らなければならぬ。それには線路距離二十キロのレールと機關車がありません。まだこの資材を入手するのに困難であつた

ので結局古物に間に合はずと云ふことになり、機關車は十五噸のボロ車を使つた、ところが線路が新しいので機關車の古いのに載せて運ぶと機關車が途中から脱線するので困つた。今日では線路が固まつたからさう苦勞はなくなつたが當時は石運びに苦勞しました。その他に石山は匪賊が出て、山の火藥庫を襲はれてダイナマイトを盗まれると云ふ様な噂もあつたので現場では夜間戦々怖々たるものであつた。こんなことで人と材料の蒐集に苦勞しましたが、當時國都が定まつて各地方から人々が新京に殺到したのですが、ホテル、住宅の用意がないので非常に之れが拂底を來し恰度今日より或はもつとひどい状態でありましたが、併しホテルを急に建てる譯にゆきませんので驛の構内に二等寢台を止めて置いて寢台の中に御客様を宿らして居たのですがこれは簡便な方法でなかつたかと思つて居ります。それから住宅の方は急に間に合はないが國都建設局で何とかしなければならぬ、と云ふので一番先は軍司令部の前の獨身宿舍西の方の集合住宅を大同元年夏に建設に懸つた。國都建設局の役所は千鳥町の借家から長通路の監獄の建物に移してそれから現在の市公署の建物に移つた。現在市公署の廳舎が一番先に滿洲國として建てたもので大同元年の暮頃使用を開始した。この住宅に就ては思ひ出がある局員の一人が竣工後間もなく此住宅に入られたがその當時夜になると盛んに銃聲が聞える此人は日本から來た許りでまだあんまり惧れて居られないので鐵砲の音を聞いては寝られない。こんなら折角新しい、宿舍を貰つても寝られないから附屬地の方へ換りたいと滾して居つた事がありますが當時は却て物騒であつたのでそれは匪賊が

來た譯でなく警戒する巡警達が威嚇する爲に發砲したのですが日本から來た許りで非常に怯えられたのであります。廳舎に就ては大同元年の地鎮祭の日に私は同僚と參列する爲に千鳥町から出て參つた。勿論ピストルは腰に持つて居つた來て見ると簡単な祭壇があつたが誰も來てゐない。暫く待つて居つたが神主が來ない、その中に日暮になりました、危険であるから枝豆を以て祭壇に榊の代りに捧げて祈つたことがあつた國都が此處に決つた當時は町としては附屬地と滿人の城内があつて、人口十萬餘ですが、その他、現在新市街になつてゐる區域は大體草原畑、壘々たる土饅頭の墓地があつて、西公園の先から南は果てしもなく茫々として居まして恰度今の軍司令附近はゴルフ場の一角で寂しかつたのです。今の新發路の附近は新發屯部落のあつた所で、この外城後路大同公園裏の義和路も部落があつて、その間を歩くのは可成り危険があつた。尙今の市公署の南東の近い所に城門が残つて居りましたが如何にも古めかしい、毀れかゝつた城門でありました。これは大同 2 年頃取拂つたが、大同公園の一部に當時監獄があつたが、或日役所に行かうと思つて出かけると恰度今の市立病院の附近から大同公園北側にかけて滿人の射殺されたのが五、六人倒れて居つた。匪賊に殺られたと思つて役所に行つて訊いて見ると、此附近の監獄を脱出して逃げた奴が五、六人射倒されたと云ふことであつた。次に仕事の話ですが、道路に就て申しますと私が參つた當時は附屬地には道路らしいものがあつたが城内には土道はあつたが鋪裝されてゐない。今の長通路の坂道や軍司令部の東横の坂道なんかは實にひどい道で雨が降ると荷馬車が動きがとれ

す泥に吸ひつけられてゐる光景が多くあつた。先程申しました、軍司令部前の獨身宿舎を建てた時に材料を運ぶのに従來の道では馬車で持つて行けない、仕方がないので道形の上に枕木を並べて枕木道を造つて馬車で運んだと云ふやうな狀況であつた。大同大街の大同廣場にぶつかる附近に大きな寺があつて、大同大街延長をなすことが出来なかつた。それでその寺を東の方へ移轉したこれが今の般若寺です。大同公園の正面の鋪道に廟がある、これも移轉する筈であつたが、移轉せずその儘置くことになつた。これはあの廟のある所に一人の孝子が居た。御母さんの死を聞いて遊學から歸つて來て、彼處の御母さんの墓の前で三年間を過しその揚句孝子はなくなつたので、彼處に孝子死骸を埋めた。その時移轉しやうと掘つて見たところが木の根が棺桶をしつかり巻いて居た。根を絶ち切つたが其切口から血を吹出したと云ふのでそれに従事した者は驚いて止めた、國都建設局ではどうしても移轉しなければならぬと云ふのでそれに懸つたが、ところが苦力が懸ると地中に人の話が聞える、その次には土工に懸つた苦力がみんな病氣に懸ると云ふでやる者がないどうしやうかと思つてゐると、滿洲國の大官の方々が孝子の墓はあの儘にして呉れと云ふで來られたので現在の儘として置く事になりました、あれにはさう云ふ因縁話があつたのであります工事をするのにいろいろ困難がありました、給水の問題が困難と感じました以前には水道は滿鐵で鐵道附屬地に一日3000噸給水して居ましたが、多くの人が1時にやつて來て新市街ほとんどん發展するが、この新しい方面に水がない大同元年の終りから2年にかけて昨年大連にあつ

たやうにひどい水飢饉があつた。風呂に入る水がない、或は便所を流す水がない、折角水洗式の便所があつても使へないと云ふので可成り露々たる苦情があつて、結局水の爲に國都は他へ移らなければならぬと云ふ噂もたつた事があります。國都建設局としてはこれに對して、水道に就てどう云ふ處置を執つたかと云ふと、當時手取り早く仕事が出来て水を出すには淺井戸を掘るより他に方法はなかつた。そこで先づ十萬分の地圖に依つて市の附近の泉と云ふ名のつく水を探した。滿鐵でも南哈爾濱線に於て泉と云ふ名の附いた所に水を探し當つたことがあつたが、新京の高臺から伊通川の斜面に降りる所に泉を數ヶ所見出した此附近に淺井戸を掘つたが、大した水はない、一つで100噸か乃至150噸位を得それで應急に配水したのですが、この井戸では大したことはないので結局深井戸に着目した深井戸に就ては、大正13年頃滿鐵が新京驛附近に1200尺のものを掘つた。これは新鴻の石油井戸を掘るやうな鑿井機で掘つたが砂岩或は頁岩が出て水がない、結局新京には深い地下に水が出ないと云ふ結論になつて居た、しかし何とかして深い所から水を出して急場を救ひたいとの考へを以て地質圖に就て色々と研究の結果大同公園の内に60米の井戸を掘つたが井戸屋は水がないと云ふのを無理に掘進めさせたが終に豫期の如く成功して7,800噸の水が出たのでその時雀躍りして喜び天の佑と喜だそれに力を得て、その他に10數本を掘つて1日10,000噸近く得たが新京の水飢饉は此地下水が救つて呉れた、此井戸からは常に清潔な水が出て一個に2,000噸位出る、これが爲に結局水道の水は1時少康を得たが將來の大都市としては斯う

云ふ水深では間に合はないので各處を比較研究した結局淨月潭の位置がいゝと云ふので彼處に土堰堤を造つた。土堰堤は滿洲では大きなものはなかつたが、土質がどうかと心配して公主嶺の農事試験場で試験して貰つた結果、東京の山口よりいゝと云ふので、それで思切つて土堰堤を造ることにしたが運搬中に粘土が乾いてばらばらになる。この儘使用しては不可ないと云ふので結局人工的に濕りを呉れなければならぬと云ふので粘土を濕らしたがそれには可成り苦心した、もう一つは今では彼處は遊園地になつて日曜日等には多くの人が遊びに行くやうになつたが康徳元年二年頃は可成り危険で仕事をしてゐる者も匪賊がいろいろの事をして妨げるので恐がつて夜業をしない。併し夜仕事しなければあの仕事を二ケ年でやる事は六ヶ敷い夜業はどうしてもやらなければならぬので警備兵を附けた、30人在郷軍人を附けて、各作業場の仕事をやらせた、ところが或夏の晩に匪賊がやつて来て、配所の従事員宿舍を襲ふたので、その警備兵が應戦して、約1時間位で撃退したが、結局一人の兵士は重傷を負つて日本へ歸つたと云ふことがありました。大同元年の中頃大井博士が私の問題で南嶺から2キロ許り此の紅咀子邊りに出掛けられたが、實に物すごい警戒をした。領事館警察の日本巡查が8名勿論小銃を持ち輕機關銃2臺を擔いで來た。これには驚いたが免角大學の先生が襲はれて若し人質になつては大變と云ふので警備を嚴にした譯だつたが今考へて見ると不思議な様ですあまり永くなりますから私の話はこの位にして置きます。

町田司長 何方でも御訊きになる方が御座いましたら御遠慮なく！、國都建設局の方で一

番初めにやられた仕事は何處ですか。

重住處長 新發路の忠靈塔の附近です道路は新發路です。

町田司長 建物は市公署ですか。

重住處長 大同元年の6月頃ですか始めたのはその年の暮に無理して遣りました。

町田司長 總務處の人々は名古屋ホテルに居たのですね。

重住處長 吾々三人の科長の行つたそれ以前は丸山と云ふ人が名古屋ホテルの部屋を借りて2、3人の人と仕事をして居つた。私共が參つた時は千鳥町の借家に居たのですが大同元年の春に今の國都建設局に移つた。丸山氏は局長になる人ですが9月半ばに突然辭めて歸つた。

町田司長 近藤さんは何時頃來られたのですか。

重住處長 結城さんの來られるのと殆んど前後して九月頃ですね。

黒田廳長 吾々は關東軍に參謀長をして居られた三宅中將が安東に四五日御出になつた折いろいろ御話を詞つたのですが、新京に國都を決めると云ふ經緯ですが軍官で頭張つたのは知つて居りますが技術關係で此處に置かなければならぬと頭張つたのは何方ですか。

重住處長 あんまり意見は出なかつたと思ひます。私は知りませんがあの時特務部は奉天の東拓の建物にあつて、滿鐵の經濟調査部から私が呼ばれて行つたのですが、その時板垣參謀が私に君若し新京に國都か決つた時水は「大丈夫か」と訊ねられたので僕は「大丈夫です」と云つたがそんな關係で國都が決ると眞先に呼ばれたのです。國都の置かれたことに就てはあまり私ははつきり知りません。

黒田廳長 石原さんですな、石原さんが私が大丈夫、建築も大丈夫と云ふ風に説明してゐますね。

最初の話は哈爾濱であつたのではないのですか。

林部理事 吉林の話もあつたのですが哈爾濱はロシアの關係があり奉天も滿洲の古い關係があつて、どうしてもうるさい、割合にうるさいことのない新京にやつたがよからうと云ふことになつたのですね。

重任處長 兎に角私が参つた時ははつきり決つて居つた。大同元年五月頃から丸山と云ふ人が此處に来て國都建設をやつて居つたのです。

町田司長 水がないのには困りましたね。

重任處長 私が水は大丈夫と云つたので實に困つたのです。

町田司長 國都建設の話はいろいろあると思ひますが時間がありませんので次に移ります、それでは津田さんに一つ御願ひしたいと思ひます。(以下次號)

本會販賣圖書

寒中コンクリート工法

前陸軍技師 勝海恭次郎 著
現交通部技佐

定價 ¥ 3.00

内 容 目 次

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 總論 | 8. ミキシング、プラントとコンクリート打設 |
| 2. 冬の調査 | 9. 保溫設備 |
| 3. 氣象の調査と觀測 | 10. 寒中コンクリート工法の實例 |
| 4. セメントの水和熱と防寒劑 | 11. 電熱保溫 |
| 5. 熱學的計算 | 12. 工費 |
| 6. 計畫と準備工作 | |
| 7. 材料の加熱装置 | |